

氏名： 秋山 光文 (AKIYAMA Terufumi)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
職名： 教授
学位： 文学修士 / M.A.(Art History)
専門分野： 東洋美術史 (とりわけ南アジアを中心とした仏教美術史)
History of Asian Art、(esp. History of South Asian Buddhist Art)
E-mail： akiyama.terufumi@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

インド美術史 / 仏教美術史 / 仏教説話図
History of Indian Art / History of Buddhist Art / Study of Buddhist Narrative Art

◆主要業績

総数 (2) 件

- ・報告書『美術に即した文化的・国家的自己同一性の追求・形成の研究—全アジアから全世界へ』(平成 19 ~ 23 年度科学研究費補助金基盤研究 (S) 研究代表者：小川裕充)
- ・本学蔵「木戸孝允肖像画」の作者を巡る研究、平成 20 年度お茶の水女子大学共同研究経費報告書

◆研究内容 / Research Pursuits

インドを淵源とする仏教美術のなかでも、仏伝や本生話など仏教説話を主題とする作例について、インドを中心とした南アジアはもとより、中央アジア・東アジア・東南アジアなど広く仏教文化圏の作例に基づいて、編年的、地域的、思想的な諸要素を経典や歴史書などの史料をもとに、説話図像の成立や展開のプロセスを解明している。

本研究の成果を集積することにより、これまでに解明されている経典の伝播ルートに加え仏教文化圏における思想的変遷の推移を図像的变化の過程とともに裏付けることが可能となる。

これまでに科研を 2 回獲得したが、今後の方針としてこれまでの成果をもとにインド本土での説話図受容のあり方をもとにして、そのほかの地域での変容を解明していくことにしている。

The main aim of my recent study is to focus the phases of variations and iconographical changes in the Buddhist narrative art among the Asian Buddhist countries, ie. India, Gandhara, the Central Asia, China, the East Asia and the South-East Asia. I have already done cite research in India, including Sanchi, Ajanta caves, Mathura, Amaravati, as well as Sri Lanka, Myanmar, Thailand, Indonesia, Gandhara, Afghanistan, Tunghuang caves and Korea. Through those results, I have tried to verify the tendencies of national identities among these area.

For that purpose, I have been cooperating with Prof. Hiromitsu Ogawa, Tokyo Univ. and his research members to do research for their collections of Indian Sculptures at various museums in Tokyo and Kanto area as well as Kyoto and Kwansai area. A part of results reported above mentioned papers.

◆教育内容 / Educational Pursuits

1. 形象分析学 (学部)
初学者のために美術史研究の方法論について講義した (形象分析学基礎論)。歴史資料を講読しながら、奈良時代におけるわが国の仏教美術史に関する基礎知識を養成した (形象分析学演習)。
 2. 美術史 (学部)
美術史学研究の方法論を修得する初歩演習を開講した (形象分析学調査演習)。
 3. 学部専門教育
卒業論文作成のための研究指導 (美術史学研究指導)を開講したほか、史料解読と研究発表のための特別演習 (形象分析学演習)を開講した。
 4. 大学院専門教育
インド仏教美術の特質について講じる講義科目 (東洋美術史特論)のほか、外国語文献の講読と研究指導のための演習科目 (東洋美術史演習)を開講した。
 5. 特別研究指導
学部4年次生 (4名)、博士課程院生 (M2:1名、研究生2名)に対して、卒業論文及び修士論文のテーマ設定、文献収集、学会発表に関する研究指導を行った。
1. Form Analysis (undergraduate students)
Introductory lecture of methodology of art history for beginners. Introductory seminar to read historical records and investigate the early Japanese Buddhist art in the Nara period.
 2. Art History (undergraduate students)
Introductory seminar to master the research study in the art history.
 3. Specialty for the undergraduates
Determination of each research theme and the supervising of research technique.
 4. Lecture and Seminar (graduate course students)
Lecture on the development of Indian Buddhist art and the conception in the East Asia.
 5. Supervising of the graduate students
Determination of each research theme and special seminar for the presentation.

◆研究計画

古代インドを淵源とする仏教美術がアジア各地で如何に受容され変質を遂げたかを、それぞれの地域における国家意識の変化とともに実証する。とりわけ、各地で広く受用され多くの作例の残る仏教説話を主題とする作例を通じ、典拠となる経典の差異やそれぞれの地域における倫理観や宗教観の違いによる図像の違いを明らかにしていく。そのことから、わが国にもたらされた仏教文化が、いかなるルートを経由したのかを解明していくことが可能となる。

◆メッセージ

あらゆる事象を他から与えられる情報のみによって判断するのではなく、自ら確認することによって実証する姿勢を貫くことであろう。溢れるばかりの情報に取り巻かれて生活する現代の我々にとって、真実とは何か、真理とは何かということを常に問いかけてほしい。このために、現地に赴いて多くの資料を収集し、自らの手で分析し問題点を抽出するとともに、疑問を解決するということを習慣づけてもらいたい。